

小型海獣葡萄鏡を発見！—小さい鏡、何に使う？—

概要 令和元年度の調査で海獣葡萄鏡が見つかりました。長い間、土に埋まっていた影響でぜい弱となっていましたので、さらなる劣化をとめるため、保存処理を行いました。

鏡について 溝跡（幅約1m、深さ約0.5m）から出土しました。鏡は銅製で、直径約6.2cmです（図1）。鏡背（＝文様のある面）は中央から、紐を通すための鈕、海獣（＝空想上の鳥獣）や葡萄唐草文（＝果物のブドウと植物のツルなどが組み合った文様）がある内区、小鳥や葡萄唐草文がある外区で構成されます（図2）。一緒に出土した土器の年代観から、8世紀中頃のものと考えられます。この型式の鏡



写真1 鏡が出土したようす

は滋賀県内では大津市の東光寺遺跡、太鼓塚遺跡に次いで3例目となり、大変貴重なものです。

この鏡の意味とまとめ この型式の鏡は、藤原京や平城京などの溝跡や川跡で発見されることが多く、水辺での祭祀に使われたと考えられています。溝跡から見つかった高野遺跡のものも、同じ性格と考えられます。また、高野遺跡は古代東海道が通過しており、倉庫と考えられる掘立柱建物跡なども見つかっています。そのため、高野遺跡にあった集落は、農耕だけでなく、郡衙・国府といった役所とのつながりも持った集落が形成されていたと考えられます。



図1 鏡の実測図

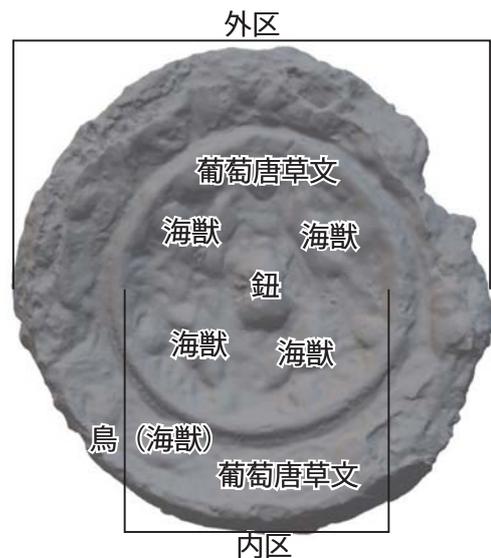


図2 部位名称図

（三次元計測図）

※原寸大（図1・図2とも）

発行 令和3年（2021年）8月7日